

平成 26 年度 「大阪府中学生チャレンジテスト」における 木津中学校の結果の分析について

大阪府による「大阪府中学生チャレンジテスト」について、平成 27 年 1 月 14 日（水）に、第 1 学年と第 2 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考えより一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性を担保する方策（「評定の範囲」の作成）について検証する。
- ③ 大阪市教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ④ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ⑤ 生徒一人一人が、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 1 学年、第 2 学年
- ・ 木津中学校では、第 1 学年 38 名、第 2 学年 45 名

3 調査内容

- ① 第 1 学年で、国語、数学及び英語
第 2 学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 木津中学校

【 第 1 学 年 】

生徒数(人)

38

平均得点（点）

平均無回答率（%）

	国語	数学	英語
学校	53.3	51.2	60.9
大阪市	61.8	52.6	66.9
大阪府	63.2	53.7	69.3

	国語	数学	英語
学校	8.5	6.6	5.4
大阪市	5.8	6.0	5.1
大阪府	5.4	5.9	4.9

結果の概要

平均得点については、数学が大阪市平均より1.4点、国語・英語が大阪市平均より6~8点下回っている。平均無回答率については、3教科ともに大阪市平均を下回っており、特に国語の無回答率が高い。

成果と今後取り組むべき課題

国語については、基礎・基本の定着を図るとともに、自分で読み取る・考える・まとめるといった力をつけて無回答率の減少につとめる。また、国語・数学・英語のすべてにおいて、現在行っている習熟度別少人数授業やTTの内容・方法を工夫するとともに、ICTを活用した授業の取り組みをすすめ生徒の興味・関心を高める。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人)

45

平均得点（点）

平均無回答率（%）

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	60.9	42.5	40.8	44.6	50.8
大阪市	61.3	47.3	47.0	43.8	52.5
大阪府	62.9	48.5	49.4	45.4	55.0

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	4.7	7.8	8.1	4.0	3.6
大阪市	6.2	7.0	8.3	5.3	4.0
大阪府	5.3	6.3	7.5	4.7	3.8

結果の概要

平均得点については、国語・英語が大阪市平均よりわずかに下回っている。社会・数学は大阪市平均をかなり下回っている。理科は大阪市平均を上回っているが大阪市平均よりは低い。平均無回答率については、社会で大阪市平均より高いが、国語・数学・理科・英語については大阪市平均より低い。

成果と今後取り組むべき課題

国語・数学・英語において、現在行っている習熟度別少人数授業やTTの内容・方法を工夫するとともに、ICTを活用した授業の取り組みをすすめ生徒の興味・関心を高める。理科では、観察・実験の技能の領域の正答率が大阪市・大阪府より高く、引き続き実験や観察を重んじた授業の取り組みを進める。また、社会では授業の工夫・改善を図り、記述式問題の正答率を高める。